

# 日本海学 シンポジウム

## 「富山湾から探る未来の海 — 持続可能性への展望 —」

令和2年2月15日(土) 13:30~16:30

北日本新聞ホール(富山市安住町2-14北館2階)

入場無料

### 基調講演

#### 「気候変化に適応した持続的沿岸漁業」

講師：桜井 泰憲 (一財) 函館国際水産・海洋都市推進機構 函館頭足類科学研究所 所長  
北海道大学 名誉教授

### パネルディスカッション

#### 「富山湾から探る未来の海 — 持続可能性への展望 —」

コーディネーター：秋道 智彌 (山梨県立富士山世界遺産センター 所長、日本海学推進機構 会長)

パネリスト：桜井 泰憲 ((一財) 函館国際水産・海洋都市推進機構 函館頭足類科学研究所 所長、北海道大学 名誉教授)

小境 卓治 (氷見市立博物館 学芸員 (前同館 館長))

前川 美湖 ((公財) 笹川平和財団 海洋政策研究所海洋政策研究部 主任研究員)



2019年10月に「世界で最も美しい湾クラブ」の世界総会が日本で初めて富山県で開催されました。

「世界で最も美しい湾クラブ」とは…

1997年に設立された非政府組織(NGO)で、世界遺産のフランス・モンサンミッシェル湾、ベトナム・ハロン湾など、世界の選ばれた44湾(24カ国・1地域)が加盟し、湾を活用した観光振興と資源の保全を目的に活動しています。

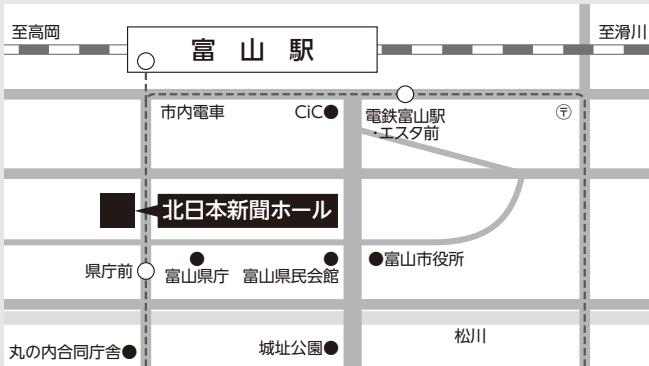
# 日本海学 シンポジウム

「富山湾から探る未来の海  
— 持続可能性への展望 —」

令和2年 2月15日(土)  
13:30~16:30

入場無料

北日本新聞ホール  
(富山市安住町2-14 北館2階)



※なるべく公共交通機関をご利用ください。  
※富山駅より徒歩10分、または市内電車「県庁前」電停より徒歩1分

## お問い合わせ・お申し込み

氏名、住所、郵便番号、電話番号を明示のうえ、ハガキ、電話、FAX  
またはE-mailで下記へお申し込みください。

## 日本海学推進機構

〒930-8501 富山市新総曲輪1-7 (富山県観光振興室内)  
TEL 076-444-9690 / FAX 076-444-4404  
E-mail adm@nihonkaigaku.org

## 日本海学とは

日本海とその周辺および関係地域全体を、生命の源である海を共有する一つのまとまりとしてとらえ、海との関わりを軸にその自然・文化・歴史・経済などを総合的に研究し、新たな領域を創成するとともに、地域間の交流を促進し生命の輝きが増す未来を構想する取り組みです。

ホームページ▶<http://www.nihonkaigaku.org/>

基調講演 13:40~14:40

## 気候変化に適応した持続的沿岸漁業

講師: **桜井 泰憲** (一財)函館国際水産・海洋都市推進機構 函館頭足類科学研究所 所長  
(北海道大学 名誉教授)

岐阜県生まれ。北海道大学水産学部卒業、同大学大学院水産学研究所水産増殖学専攻修了。水産学博士。青森県宮浅虫水族館勤務、北海道大学水産学部助手、助教、教授を経て現職。専門分野は海洋生態学、水産海洋学。知床世界自然遺産地域科学委員会委員長、同海域ワーキング座長、中央環境審議会臨時委員、野生生物部会・自然環境部会委員、水産海洋学会会長、日本水産学会副会長を歴任。著書に『イカの不思議 季節の旅人・スルメイカ』(北海道新聞社)などがある。



パネルディスカッション 14:55~16:30

## 富山湾から探る未来の海 — 持続可能性への展望 —

コーディネーター: **秋道 智彌** (山梨県立富士山世界遺産センター 所長)  
(日本海学推進機構 会長)

京都府生まれ。京都大学理学部動物学科卒業、東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。理学博士。国立民族学博物館民族文化研究部長、総合地球環境学研究所副所長、研究推進戦略センター長を経て現職。現在、日本海学推進機構会長。海洋政策研究所特別研究員。専門は、生態人類学。海洋と人類の多様な問題を多角的な視点から調査・研究している。近著としては、『海とヒトの関係学①日本人が魚を食べ続けるために』(共編著、西日本出版社)、『海とヒトの関係学②海の生物多様性を守るために』(共編著、西日本出版社)、『交錯する世界—自然と文化の脱構築』(編著、京都大学学術出版会)、『たたきの人類史』(玉川大学出版部)、『食の冒険』(昭和堂)、『魚と人の文明論』(臨川書店)ほか多数。



パネリスト: **桜井 泰憲** (一財)函館国際水産・海洋都市推進機構 函館頭足類科学研究所 所長  
(北海道大学 名誉教授)

パネリスト: **小境 卓治** (氷見市立博物館 学芸員 (前同館 館長))

富山県生まれ。立命館大学産業社会学部卒業。氷見市教育委員会学芸員、氷見市立博物館学芸員、同博物館館長を経て現職。専門は民俗学。越中と能登をフィールドとして定置網の歴史や漁業習俗のほか、漁村の祭礼と年中行事に関する調査と研究に従事する。2015年に博物館開設準備段階から収集と整理に携った『氷見市および周辺地域の漁撈用具』が国登録有形民俗文化財となる。主な著書・共著に、日本海学研究叢書『台網から大敷網へ—富山湾の定置網の歴史と漁撈—』(2006年、富山県・日本海学推進機構)、『氷見の民俗』(氷見市教育委員会)、『氷見のさかな』(氷見市教育委員会)がある。



パネリスト: **前川 美湖** (公財)笹川平和財団  
(海洋政策研究所海洋政策研究部 主任研究員)

アメリカ・ミネソタ州生まれ。1996年に上智大学文学部卒業後、1999年に英国イースト・アングリア大学大学院(環境と開発)修了。2000年から国連開発計画(UNDP)で7年間勤務し、北京、ニューヨーク、ルワンダ事務所で、環境・エネルギープロジェクトを中心に担当。2008年に東京大学大学院新領域創成科学研究科で、博士号取得(国際協力学)。2012年に東京大学総括プロジェクト機構「水の知」(サントリー) 総括寄付講座特任助教、2013年に大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻特任講師、2014年から笹川平和財団に移籍、2015年より現職。専門は国際協力、生物多様性、気候変動と移転問題。主な著書に『海とヒトの関係学②海の生物多様性を守るために』編者 秋道智彌、角南篤、第12章「海洋生物多様性の保全に向けた世界の取組み」前川美湖、角田智彦(西日本出版社)、Chapter 9 Sustainable ocean management and the role of the Japan Coast Guard, Miko Maekawa, Hiroshi Terashima, Eka Higuchi, *Routledge Handbook of Japanese Foreign Policy*, Edited by Mary M. McCarthy, (2018) New York, Routledgeなどがある。



日本海学シンポジウム 参加申込書 (FAX、郵便でお申し込みの場合にご利用ください。)

**FAX 076-444-4404**

ふりがな 氏名	代表者 住所
ふりがな 氏名	
ふりがな 氏名	電話

※ 聴講券は配布いたしませんので、申し込まれた方は当日直接会場にお越しください。